

視覚障害者のエスカレーター利用のための誘導案内方法検討 ワーキンググループの設置について（案）

1. 開催趣旨

視覚障害者のエスカレーターへの誘導案内については、平成 28 年度及び 29 年度に「移動等円滑化のために必要な旅客施設又は車両等の構造及び設備に関する基準等検討委員会」を設置し、学識経験者、高齢者、障害者等関係団体、事業者団体等の参画を得て、移動等円滑化基準の改正内容、ガイドラインの改訂について検討を行った。

この検討の中では、技術が開発途上であることや十分に普及していないこと、有効性が確実に証明されているわけではないこと等の理由により、視覚障害者がエスカレーターを利用できるようにするための誘導案内方法について検討課題とされたところである。

また、本年 6 月 10 日に開催された「令和 2 年度第 1 回公共交通機関のバリアフリー基準等に関する検討会」においても、エスカレーターへの誘導案内方法について、過去の議論の整理を行うべきとの議論となったことから、現行ガイドラインの内容を充実させることを目的としてワーキンググループ（WG）を開催する。

2. 検討内容

視覚障害者誘導用ブロックについては、平成 28 年度から 29 年度にかけて開催した「移動等円滑化のために必要な旅客施設又は車両等の構造及び設備に関する基準等検討委員会」における検討を踏まえ、平成 30 年 3 月にバリアフリー整備ガイドラインを改訂し、視覚障害者を旅客施設のエスカレーターへ誘導する場合の視覚障害者誘導用ブロックの敷設条件を示したところである。

しかしながら、乗口における具体の敷設方法（エスカレーター中央に誘導するか、片側に寄せて誘導するか等）等については、上記検討委員会において今後の検討課題として整理され、また、実態として公共交通事業者等によるエスカレーターへの誘導用ブロックの敷設が進んでいないことから、障害当事者団体は、敷設促進について早急な対応を求めているところ。

このため、エスカレーターへの誘導用ブロックの敷設促進に向けて、敷設方法案や誘導案内を行うエスカレーターの対象範囲を検討し、視覚障害者による検証結果を踏まえた敷設の考え方・事例をガイドラインにおいて示す必要がある。

- ① エスカレーターの誘導案内に関する視覚障害者へのヒアリング調査
- ② 誘導用ブロックによる誘導案内に対する事業者の問題意識等の調査
- ③ 対象とするエスカレーター及び誘導用ブロック敷設方法（案）等の整理

※検討 WG は、2 回程度開催

3. WGメンバー

【有識者】

| | |
|-------|---|
| 稲垣 具志 | 中央大学 研究開発機構 准教授 |
| 大野 央人 | 公益財団法人鉄道総合技術研究所 主任研究員 |
| 澤田 大輔 | 公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団 バリアフリー推進部 企画調査課長（整備支援課長兼務） |
| 関 喜一 | 国立研究開発法人産業技術総合研究所 情報・人間工学領域 人間情報インタラクション研究部門 行動情報デザイン研究グループ 上級主任研究員 |
| 中野 泰志 | 慶應義塾大学 経済学部 教授 |
| 松田 雄二 | 東京大学大学院 工学系研究科 准教授 |

【障害者団体等】

| | |
|-------|--|
| 庵 悟 | 社会福祉法人全国盲ろう者協会 |
| 加藤 俊和 | 特定非営利活動法人全国視覚障害者情報提供施設協会 サピエ事務局長 |
| 大隅 蓉子 | 公益社団法人日本網膜色素変性症協会 理事 |
| 白井 夕子 | 公益社団法人東京都盲人福祉協会 指導員 （日本弱視者ネットワーク 代表） |
| 高橋 玲子 | 公益財団法人共用品推進機構 （株式会社タカラトミー） |
| 田中 雅之 | 社会福祉法人名古屋市総合リハビリテーション事業団 リハビリテーションセンター 自立支援部長 |
| 堀内 恭子 | 日本歩行訓練士会 事務局長 |
| 三宅 隆 | 社会福祉法人日本視覚障害者団体連合 情報部長 |
| 吉川 明 | 社会福祉法人日本盲人社会福祉施設協議会 理事 （公益財団法人日本盲導犬協会 顧問） |

（五十音順、敬称略）